

Ⅲ 次の35問題のうち25問題を選択して解答せよ。(解答欄に1つだけマークすること。)

Ⅲ－1 科学的管理法及び課業に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 科学的管理法では、各種の仕事にそれぞれ適性のある作業者を選定し、その作業者を教育し訓練して能力を高めることが重要であると説かれている。
- ② Taylorは、科学的管理法において作業者が作業を行うとき、最も合理的に作業を行うために適用される経験則として、動作経済の原則を提唱した。
- ③ 科学的管理法の原理の1つに、発展させた科学の原理に合わせてすべての仕事ができるよう、管理者と労働者が心から協働することが挙げられている。
- ④ 科学的管理法では、労働者の仕事の各要素について科学を展開することが管理の原則の1つであるとしている。
- ⑤ 科学的管理法における課業とは、標準の作業速度に基づいて設定された1日の公正な仕事量を指している。

Ⅲ－2 JIS Z8141：2022生産管理用語における生産方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① セル生産とは、1人から複数人の作業者、又は1台から数台の機械設備で構成されるセルによって製品を生産する方式である。
- ② モジュール生産とは、複数種類の部品又はユニットのモジュールをあらかじめ生産しておき、受注後にモジュールの組合せによって多品種の製品を生産する方式である。
- ③ プロセス生産とは、部品を加工又は購入し、それらの部品を、組立基準書など、工程設計に基づいて、順次、組み立てて製品を作る方式である。
- ④ ノックダウン生産とは、部品類のすべて又は一部を他国から購入し、組立を行う生産方式である。
- ⑤ アジャイル生産とは、コアコンピタンスを持つ複数の企業が連携して、特定の顧客のために高品質の製品をスピーディーに開発し、限られた量を生産する方式であり、大量生産の対極をなす形態である。

Ⅲ－３ 標準時間に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 標準時間とは、その仕事に適性を持ち、習熟した作業者が、所定の作業条件のもとで必要な余裕を持ち、正常な作業ペースによって仕事を遂行するために必要とされる時間である。
- ② 標準時間は、主体作業時間と準備段取作業時間とで構成される。
- ③ 準備段取作業時間とは、作業サイクルごと、又は一定周期ごとに発生する作業時間で、主作業時間と付随作業時間とに分けることができる。
- ④ 標準時間は、生産活動を計画し、実施し、評価する管理サイクルの時間的な基準として設定される。
- ⑤ 準備段取作業時間は、正味時間と余裕時間に区分される。

Ⅲ－４ 作業者の習熟に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 横軸に作業の繰り返し回数、縦軸に作業時間を取り、作業時間の減少を表した曲線を習熟曲線という。
- ② 生産の場合は、生産数量の増加により、１個当たりの作業時間が早くなることを習熟というが、心理学ではこれを学習という。
- ③ 習熟は、作業者個人はもとより、作業者グループ、システム全体にもみられる。
- ④ 精神的・知的判断作業の場合には、習熟はない。
- ⑤ 対数線形習熟モデルで習熟曲線を両対数グラフに表すと直線になり、その直線の勾配を習熟係数という。

Ⅲ－５ 稼働状況を分析する手法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 稼働分析を行う手法の1つであるワークサンプリング法によって稼働率を求めた場合、全体を調べていないサンプル調査であるので、稼働率の算出結果に対する統計的な保証がない。
- ② 稼働分析におけるワークサンプリング法は、不規則に発生する作業に対しても適用可能である。
- ③ 稼働分析における連続観測法は、分析対象の作業や設備を長時間にわたり連続的に観測するため、作業内容を詳細に分析することに適している。
- ④ 稼働分析を実施する際、観測に対する警戒心や反発心を持たれない普段どおりの作業で行ってもらうことが重要であり、作業対象者にあらかじめ観測内容や観測目的をきちんと説明しておくべきである。
- ⑤ 稼働分析におけるワークサンプリング法は、1人で複数の観測対象を測定できるなど、観測効率の高い分析法である。

Ⅲ－６ 動作経済の原則に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 動作経済の原則は、身体の使用に関する原則、作業場の配置に関する原則、作業安全に関する原則に大別される。
- ② 動作経済の原則は、作業者の手の動作だけでなく、目や足の動きも対象としている。
- ③ 手及び身体の動作は、仕事を満足にできるような最小単位のものに限定することが好ましい。
- ④ 手の動作は、ジグザグ動作や突然かつシャープに方向変換を行う直線運動より、スムーズに継続する動作が好ましい。
- ⑤ 材料や工具は、動作を最良の順序で行うように配置することが好ましい。

Ⅲ－７ 人・機械分析に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 人・機械分析は、人と機械が協同して作業を行うときに作業効率を高めるための分析手法である。
- ② 人・機械分析では、担当する機械間を人が移動する場合、フロムツーチャートを作成し、分析を行う。
- ③ 人・機械分析では、作業を単独作業、連合作業、不稼働に分類することが効果的である。
- ④ 人・機械分析は、人が担当する最適な受持ち機械台数を決めるために活用できる。
- ⑤ 人・機械分析は、段取時間の短縮を目的とした内段取・外段取作業の分析に活用できる。

Ⅲ－８ ４つの作業ステーションで構成される次の a～c の【条件】のもとでライン生産を行っている職場に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

【条件】

- a. ４つの作業ステーションで構成され、各作業ステーションの作業時間（分）は、それぞれ第１作業ステーションが4.3、第２作業ステーションが4.2、第３作業ステーションが4.0、第４作業ステーションが4.8である。
 - b. 最大の作業時間をサイクルタイムとして運用する。
 - c. 各作業ステーションの作業者は、それぞれ１名である。
-
- ① ラインの編成効率は、90％である。
 - ② ラインのバランスロスは、10％である。
 - ③ ラインの組余裕率は、11％である。
 - ④ ボトルネック作業ステーションは、第４作業ステーションである。
 - ⑤ 第２作業ステーションの作業時間が4.0に減少した場合、編成効率は増加する。

Ⅲ－９ 人間工学における作業システム設計に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 作業負担は、外的作業負荷に対する作業者の個人的特性に応じた内部反応である。
- ② 作業疲労は、有害ではあるが病的ではない状態で表れた作業負担であり、休息すれば完全に回復できる。
- ③ 作業強度は、標準的な能力をもつ人の側からみた作業のやさしさ、苦しさの程度である。
- ④ 作業者への冗長性のある情報表示は、作業者が表示された情報をクロスチェックするのを助けることができるので、冗長性が作業の要求以上で且つ冗長度が高いほど精神的な作業負担が減少する。
- ⑤ 作業負荷の大きさ及び持続時間は、作業による疲労を指数関数的に増大させる影響を及ぼすので、作業持続時間は、作業負荷の大きさによって調整されなければならない。

Ⅲ－１０ MRPに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、MRPとはMaterial Requirements Planning、MPSとはMaster Production Schedule、BOMとはBill of Materials、MRP IIとはManufacturing Resource Planning、ERPとはEnterprise Resource Planningである。

- ① MRPとは、MPSの実行を可能とするための、原材料、部品、組立品の生産あるいは発注の計画である。
- ② MRPを立案するには、製品の生産に必要な原材料、部品、組立品の種類と数量、及びそれらの構成を定義する必要があるが、これをBOMが保持している。
- ③ MRPの導入は、企業が業務へのコンピュータの活用を本格化しはじめた1970年代から拡大した。
- ④ MRPは、資材の計画から生産資源の計画を扱うMRP IIへ発展している。
- ⑤ ERPは、財務会計・生産・販売物流など企業のすべての資源の最適化を図り、MRPとは独自に発展したものである。

Ⅲ－11 発注方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 定期発注方式は、発注間隔だけでなく調達期間も考慮して発注量を決定する。
- ② 定期発注方式での発注量は、発注のたびごとに予測払出量、現在在庫量、発注残、安全在庫などを考慮して求める。
- ③ 定量発注方式は、比較的単価が安く、安定した需要をもつ標準品、共通品など、多品目にわたる小物の常備品を扱う場合に応用すれば効果的である。
- ④ 定量発注方式は、在庫量があらかじめ定められた一定量まで減少したときに、経済的発注量などによりあらかじめ定められた発注量を発注する方式である。
- ⑤ 定期補充点方式は、あらかじめ定めた補充間隔で補充点と発注点の差である補充量を発注する方式である。

Ⅲ－12 QC七つ道具に関する記述として、最も不適切なものはどれか。

- ① 原因と結果がどのように関係し影響しているかを表す図を、特性要因図という。
- ② プロセスの過程で想定外の問題が生じたとき、できるだけ早く目標に向かって軌道修正するために有効な図を、管理図という。
- ③ 何が最も重要なのか、改善のポイントを調べるため、不適合件数などを分類項目別に分け、大きい順に並べた図を、パレート図という。
- ④ データ相互の関係、特性要因の解析、回帰直線のために用いられる図を、散布図という。
- ⑤ 点検、確認、遵守状況のチェックや不適合品数などのデータがどこに集中しているかを表した図を、チェックシートという。

Ⅲ－13 以下の製品規格、製品特性から算出される両側規格における工程能力指数の値として、最も近いものはどれか。

【製品規格・製品特性】

- ・製品規格は、下限を8.0cm、上限を12.0cmとする。
- ・製品特性は、正規分布で平均10.0cm、標準偏差0.5cmとする。
- ・参照区間は、 6σ とする。

- ① 0.4 ② 1.3 ③ 2.5 ④ 3.3 ⑤ 8.0

Ⅲ－14 下表は、繰り返しのある場合の二元配置法実験による分散分析表であり、分散及び分散比は未記入である。この分散分析表に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、F分布の自由度 ϕ_1 , ϕ_2 , 上側確率 α パーセント点を $F(\phi_1, \phi_2, \alpha)$ とすると、 $F(2, 12, 0.05) = 3.89$, $F(2, 12, 0.01) = 6.93$, $F(3, 12, 0.05) = 3.49$, $F(3, 12, 0.01) = 5.95$, $F(6, 12, 0.05) = 3.00$, $F(6, 12, 0.01) = 4.82$ であるものとする。

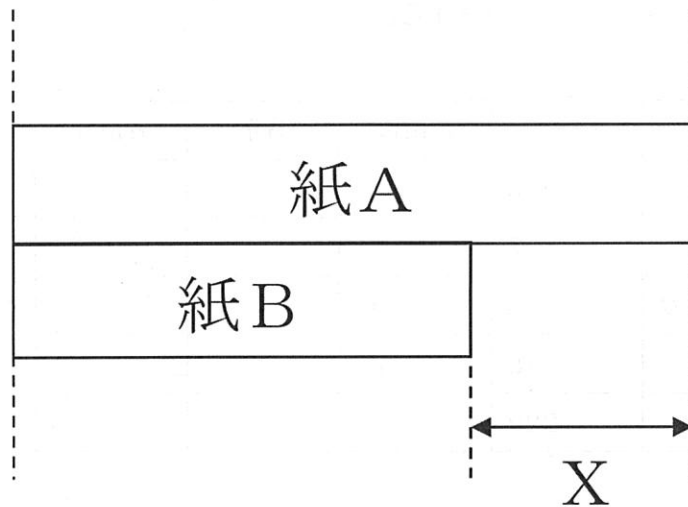
要因	平方和	自由度	分散	分散比
成型機 A	25	2		
加圧力 B	72	3		
交互作用 $A \times B$	78	6		
誤差 e	48	12		
合計	223	23		

- ① 要因 B の加圧力の分散は、6 である。
- ② 交互作用 $A \times B$ の分散比は、1.625 である。
- ③ 要因 A の成型機は、有意水準 1 % で有意である。
- ④ 要因 B の加圧力は、有意水準 1 % で有意である。
- ⑤ 交互作用 $A \times B$ は、有意水準 1 % で有意である。

Ⅲ－15 確率論に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

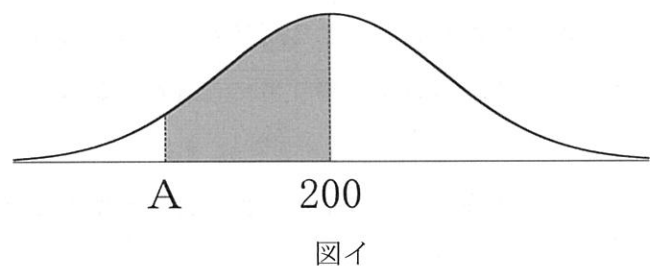
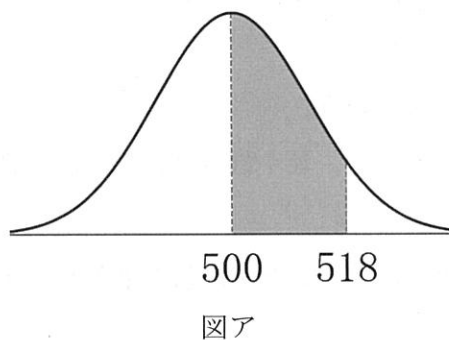
- ① 起こり得るすべての結果の集合のことを、標本空間という。
- ② 標本空間の部分集合のことを、事象という。
- ③ 標本空間における所与の事象の補集合を、余事象という。
- ④ 所与の事象に割り当てられる実数のことを確率といい、最小値は 0、最大値は 100 である。
- ⑤ 共通部分の確率がそれぞれの確率の積となる事象の対のことを、独立事象という。

- Ⅲ－16 長辺の長さが平均150mmで標準偏差が8mmの正規分布に従う長方形の紙Aと、長辺の長さが平均100mmで標準偏差が6mmの正規分布に従う長方形の紙Bを、下図のように、左側の短辺を揃えて置いた。なお、紙A及び紙Bともに短辺の長さは25mmである。また、紙Aの長辺の長さ α と紙Bの長辺の長さ β は独立である。紙Aと紙Bの長辺の長さの差 X の標準偏差について、最も適切な値はどれか。



- ① 2mm ② $2\sqrt{7}$ mm ③ 10mm ④ 14mm ⑤ 50mm

- Ⅲ－17 図アは平均が500で標準偏差が12の正規分布を、図イは平均が200で標準偏差が20の正規分布を表している。それぞれの塗りつぶされた面積が等しいとき、図イ内のAについて、最も適切な値はどれか。



- ① 150 ② 155 ③ 170 ④ 180 ⑤ 182

Ⅲ－18 統計的検定に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 検定の検出力は、1 から第2種の誤りの確率を引いたものである。
- ② 与えられた母分散と標本分散を比較する統計的検定では、カイ二乗分布の分位点の値が用いられる。
- ③ 帰無仮説を棄却できないということは、帰無仮説の妥当性を証明したことではなく、帰無仮説を否定する十分な証拠がなかったということである。
- ④ 与えられた母平均と標本平均を比較する統計的検定では、分散が既知のとき、標準正規分布の分位点の値が用いられる。
- ⑤ 有意確率は、検定統計量の観測値に対して、その値を含み、その値よりも対立仮説を支持することにならない検定統計量が得られる確率である。

Ⅲ－19 次の分析内容に対応する多変量解析の手法の組合せとして、最も適切なものはどれか。

【分析内容】

- ア．製品の広告費，キャンペーン回数，売場面積が製品売上に影響を与えることが知られている。このときの関係を線形モデルで表したい。
- イ．ある会社では，各社員に対して，前年度の残業時間，前年度の有給取得日数，前年度勤怠評価の3つの変数，そして退職したか，からなるデータを蓄積している。今年度における3変数のデータから来年度の社員の去就を予測したい。
- ウ．複数の社員に対する10項目の業務適性テストの結果から，より少数の代表的な総合特性値を抽出したい。
- エ．ある製品のパッケージについて，消費者から好き嫌いの二元選択で，色，フォント，形状，サイズなど複数の要因の好みに関するデータを収集している。消費者の好みの傾向を統合した値を算出し，同一空間上でマッピングしたい。
- オ．ある企業では実施した社内研修の効果を検証するためにアンケートを行っている。研修満足度，業務改善意識，チームワーク意識などの潜在的な因子間の関連をモデル化したい。

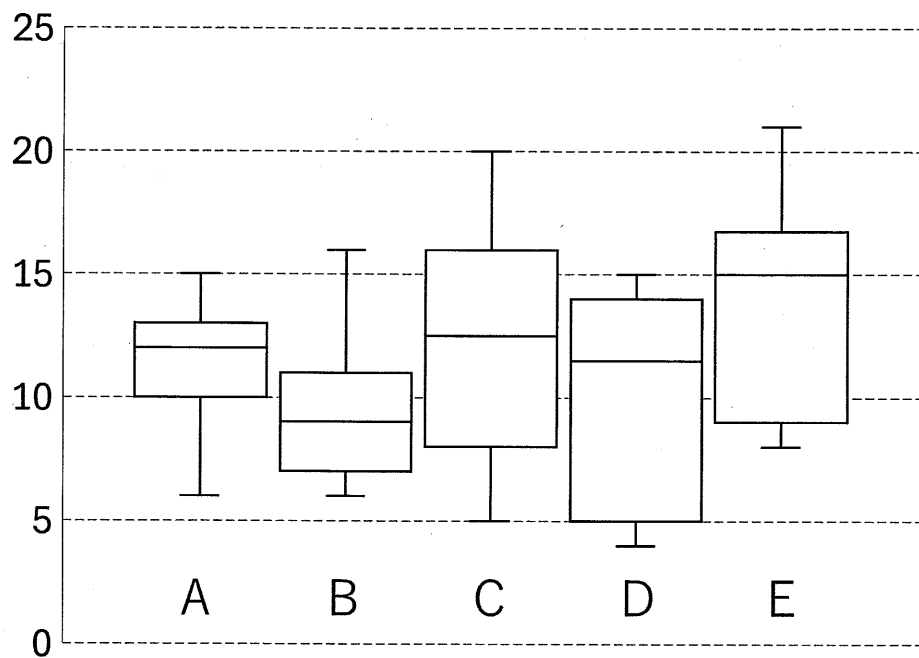
【多変量解析手法】

- a．主成分分析
 - b．重回帰分析
 - c．判別分析
 - d．共分散構造分析
 - e．数量化3類
-
- ① アー b， イー e， ウー a， エー c， オー d
 - ② アー b， イー c， ウー a， エー e， オー d
 - ③ アー b， イー e， ウー a， エー d， オー c
 - ④ アー a， イー c， ウー b， エー e， オー d
 - ⑤ アー a， イー e， ウー b， エー d， オー c

Ⅲ－20 下図の5つの箱ひげ図AからEは、いずれも40個の数値データから作成されている。以下のa～cの条件を満たす箱ひげ図として、最も適切なものはどれか。

【条件】

- a. 10以上のデータが半数以上である。
- b. データの中に15が必ず含まれる。
- c. 四分位範囲が5より大きい。

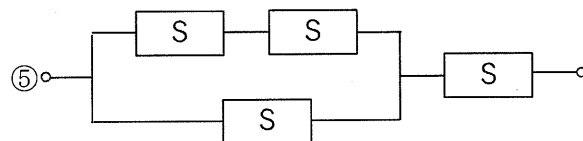
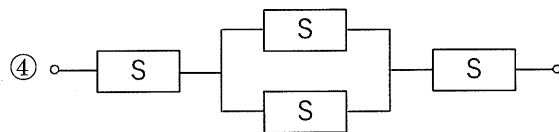
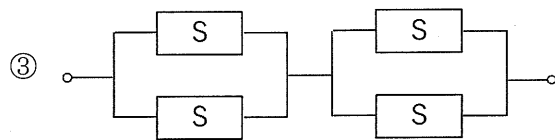
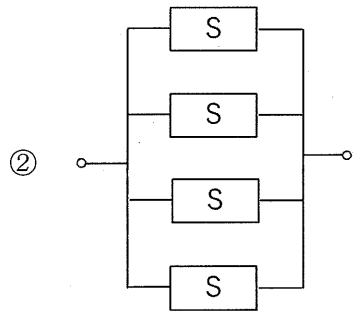
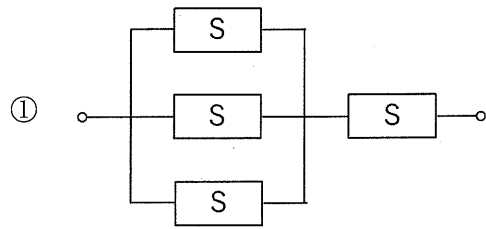


- ① A ② B ③ C ④ D ⑤ E

Ⅲ－21 JIS Z8115:2019の総合信頼性の用語に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① サービス品質は、サービスの利用者の満足度を定めるサービス状態の包括的な結果である。
- ② アベイラビリティは、要求どおりに遂行できる状態にあるアイテム能力である。
- ③ ケーパビリティは、サービスを提供し、その使用を援助する組織の能力である。
- ④ サービス完全性は、一旦提供が開始されたサービスが、過度の損傷なく提供される程度である。
- ⑤ サービス持続性は、サービスの提供開始後、要求される期間、与えられた条件の下で提供され続ける程度である。

Ⅲ－22 同じ機能を持つ4つの装置Sがある。これらの装置を組合せて下図に示すシステムを作るとき、システムの信頼度が3番目に高いものはどれか。



Ⅲ－23 2工程のフローショップで処理されるA～Fの6個の仕事に関するデータが下表に与えられている。以下のa～cの条件の下で、ジョンソンのアルゴリズムを用いたメイクスパンが最小となる仕事の順序付けとして、最も適切なものはどれか。

【条件】

- a. 1つの工程では、同時に2つの仕事の処理を行うことはできない。
- b. どの仕事も時刻0で開始可能である。
- c. 1つの仕事は、第1工程の処理終了後に第2工程で処理される。

表 仕事の処理時間

仕事	第1工程	第2工程
A	19	13
B	14	16
C	13	18
D	15	10
E	11	15
F	18	17

- ① C→F→B→E→A→D
- ② D→A→E→B→F→C
- ③ D→E→B→C→A→F
- ④ E→C→B→D→F→A
- ⑤ E→C→B→F→A→D

Ⅲ-24 次の線形計画問題

最大化： $10x_1 + 8x_2 + 5x_3$

条件： $3x_1 + 2x_2 + x_3 \leq 3$, $0 \leq x_1 \leq 1$, $0 \leq x_2 \leq 1$, $0 \leq x_3 \leq 1$

がある。この最適解は、 $x_1 = 0$, $x_2 = 1$, $x_3 = 1$ である。これと同じ最適解をもつ最適化問題として、最も不適切なものはどれか。

① 最大化： $10x_1 + 8x_2 + 5x_3$

条件： $3x_1 + 2x_2 + x_3 = 3$, $0 \leq x_1 \leq 1$, $0 \leq x_2 \leq 1$, $0 \leq x_3 \leq 1$

② 最大化： $10x_1 + 8x_2 + 5x_3$

条件： $3x_1 + 2x_2 + x_3 \leq 3$, $0 \leq x_1 \leq 1$, $0 \leq x_2 \leq 1$, $0 \leq x_3 \leq 1$,

x_1, x_2, x_3 : 整数

③ 最大化： $10x_1 + 8x_2 + 5x_3$

条件： $3x_1 + 2x_2 + x_3 \leq 3$, $0 \leq x_1$, $0 \leq x_2$, $0 \leq x_3$

x_1, x_2, x_3 : 整数

④ 最大化： $10x_1 + 8x_2 + 5x_3$

条件： $6x_1 + 4x_2 + 2x_3 \leq 6$, $0 \leq x_1 \leq 1$, $0 \leq x_2 \leq 1$, $0 \leq x_3 \leq 1$

⑤ 最大化： $20x_1 + 16x_2 + 10x_3$

条件： $3x_1 + 2x_2 + x_3 \leq 3$, $0 \leq x_1 \leq 1$, $0 \leq x_2 \leq 1$, $0 \leq x_3 \leq 1$

Ⅲ-25 窓口が1つの銀行で、20分間に10人の顧客が到着し、そのうち4人は待ち時間なく窓口でサービスを受けることができ、6人はサービスを受けるまでに待ち時間が発生した。この時点での平衡状態（状態が時間に対して変化しないとき）における窓口の平均サービス時間として、次のうち最も近いものはどれか。

- ① 0.3分 ② 0.5分 ③ 0.8分 ④ 1.2分 ⑤ 3.0分

Ⅲ－26 階層化意思決定法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 階層化意思決定法とは、複数の評価基準のもとで、多数の代替案の中から選択をする方法である。
- ② 階層化意思決定法は、2つの要素の一対比較という直感的な判断の積み重ねによって、問題全体の大局的な判断を支援する。
- ③ 評価基準の数が4のとき、評価基準における一対比較行列を作成するためには、一対比較を少なくとも12回行う必要がある。
- ④ 一対比較行列は、正方行列であり、どの対角成分でも値が必ず1になる。
- ⑤ 一対比較同士の整合性を確認するため、整合度という指標を用いる。

Ⅲ－27 メタヒューリスティクスの手法として、最も不適切なものはどれか。

- ① 局所探索法
- ② デルファイ法
- ③ タブーサーチ
- ④ 遺伝的アルゴリズム
- ⑤ シミュレーテッドアニーリング

Ⅲ－28 ある企業では製品Aと製品Bを製造販売している。製品Aは売上高に占める構成比が75%、変動費率が40%、製品Bは売上高に占める構成比が25%、変動費率が20%である。固定費は、工場の賃料が200千円、店舗の賃料が320千円のと看、この企業の損益分岐点売上高の値として、最も近いものはどれか。

- ① 185千円
- ② 500千円
- ③ 800千円
- ④ 1,500千円
- ⑤ 2,080千円

Ⅲ－29 次の a～e の【条件】のもとで，下表に示す設備投資案のうち，最も経済的に有利な投資案はどれか。

【条件】

- a. 設備投資案はどれか 1 つしか選択できない。
- b. 設備はレンタルし，1 年後には返却する。
- c. 設備の借入費用は，年間 1 台当たり 120 万円である。
- d. 下表の利益は，売上から仕入原価，そのほかの経費を差し引いたもので，設備の借入費用だけは引かれていない。
- e. 対象期間は，1 年間とする。

案	設備台数（台）	利益（万円）	1 台当たり利益 （万円／台）
A 案	1	200	200
B 案	2	300	150
C 案	3	630	210
D 案	4	780	195
E 案	5	850	170

- ① A 案 ② B 案 ③ C 案 ④ D 案 ⑤ E 案

Ⅲ－30 下表に示す5つの投資案のうち、1年後の収益が最も有利な投資案（正味利益）はどれか。なお、投資の元金は金利15%で借り入れるものとする。

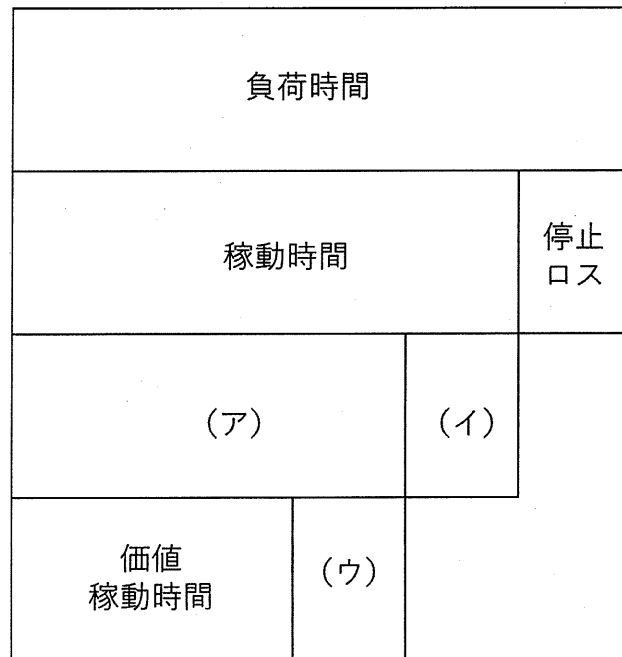
案	投資額（万円）	収益額（万円）
A案	200	364
B案	250	423
C案	300	478
D案	350	536
E案	400	585

- ① A案 ② B案 ③ C案 ④ D案 ⑤ E案

Ⅲ－31 VEに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、VEとはValue Engineeringである。

- ① VEでは、価値は機能をコストで除したものと定義する。
- ② VEの活動では、特に技術進歩の速い領域の場合にいろいろな面で知識不足を補うため、専門の異なる複数の人によるチームで活動を取り組むことが望まれる。
- ③ VEの適用過程は、特定の製品やサービスの価値の創造ないし向上に用いる場合、VEの適用計画、VE代替案の作成と実施、VE適用結果の評価の順で進めていく。
- ④ VEでは、直接的な顧客だけでなく、直接的な顧客が製品やサービスを使用・消費することに関連して、利害関係が生ずる者も含める必要がある。
- ⑤ VEを製品に適用する場合では、製品の機能に対するコスト評価を行うため、市場調査費や、物流・販売費を除いた原価を対象に評価を行う。

Ⅲ－32 設備総合効率に関連して説明される下図に関する記述のうち，最も適切なものはどれか。



- | | ア | イ | ウ |
|---|--------|------|------|
| ① | 作業時間 | 不良ロス | 性能ロス |
| ② | 作業時間 | 性能ロス | 不良ロス |
| ③ | 正味稼動時間 | 不良ロス | 故障ロス |
| ④ | 正味稼動時間 | 性能ロス | 不良ロス |
| ⑤ | 正味稼動時間 | 故障ロス | 性能ロス |

Ⅲ－33 JIS Z0111:2006物流用語に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
なお、EDIはElectronic Data Interchangeである。

- ① パレチゼーションとは、複数の企業が、物流業務の効率化、顧客サービスの向上、交通混雑の緩和、環境負荷の軽減などのために、物流機能を共同化することである。
- ② 物流EDIとは、物流業務にかかわる企業間において、情報ネットワークを介して、メッセージ交換及びデータ交換を標準化された規約の基に、コンピュータ間で行う電子データ交換のことである。
- ③ ロケーション管理とは、保管の効率化や、入出庫作業の円滑化などのために、どの物資が、どの保管場所にあるかを管理する保管方式である。
- ④ クロスドッキングとは、物流センターの荷受場で、入荷品を事前出荷通知に基づき保管するか出荷するか識別して、出荷品を出荷場に通過させることである。
- ⑤ モーダルシフトとは、環境問題への対応を目的に、幹線貨物輸送をトラックから鉄道又は内航海運へ転換し、トラックと連携して複合一貫輸送を推進することである。

Ⅲ－34 安全対策におけるフェールセーフの事例に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ① 重量物をワイヤで吊る場合、主たるワイヤのほかにやや弛ませた副ワイヤをつける。
- ② 作業者がうっかり手を出しても接触しないように、回転部にカバーを取り付ける。
- ③ ねじの締め付け回数を測定できるようにし、回数が足りないとき警報ブザーが鳴る。
- ④ 配電盤の扉を開けると電気回路が切れ、扉を閉めると電気回路が復帰する。
- ⑤ 組立作業時に、部品の組付けに抜けがないようにチェックリストを用意する。

Ⅲ－35 JIS Z26000:2012の社会的責任の七つの原則に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① 組織は、人権を尊重し、その重要性及び普遍性の両方を認識すべきである。
- ② 組織は、自らのステークホルダーの利害を尊重し、よく考慮し、対応すべきである。
- ③ 組織は、法の支配の尊重という原則に従うと同時に、国際行動規範も尊重すべきである。
- ④ 組織は、自らが社会、経済及び環境に与える影響について説明責任を負うべきである。
- ⑤ 組織は、生活に必須のものを満たす人々の能力を危険にさらすような行動を避けるべきである。